

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 472 号	氏名	松屋 合歓
学位審査委員	主 査	川上 純	
	副 査	永田 泉	
	副 査	永山 雄二	
論文審査の結果の要旨			
1. 研究目的の評価 本研究の目的は、視神経脊髄炎(Neuromyelitis optica: NMO)の病態と T 細胞免疫応答を検討するもので、目的は十分に妥当である。			
2. 研究手法に関する評価 NMO 患者、多発性硬化症(Multiple sclerosis: MS)患者、健常人から末梢血単核球(PBMC)を分離し、細胞の活性化をフローサイトメトリー法を用いた CD69 発現で検討している。NMO に関連するアクアポリン-4(AQP4)由来のオーバーラッピングペプチド(28 種類)と MS に関連するミエリン抗原由来のペプチド(6 種類)を用いて PBMC を刺激し、T 細胞免疫応答を CD4 ⁺ CD69 ⁺ 細胞の陽性率で評価している。また、これらの反応性と HLA との関連も検討し、研究手法は妥当である。			
3. 解析・考察の評価 再発時の NMO 患者では CD4 ⁺ CD69 ⁺ 細胞が増加し、寛解期においても AQP4 由来ペプチド刺激で CD4 ⁺ CD69 ⁺ 細胞の増加を認め、これらの反応は MS 患者および健常人よりも強く認められた。一部のミエリン抗原由来ペプチド刺激でも CD4 ⁺ CD69 ⁺ 細胞の増加を認めた。HLA-DR15 および HLA-DP5 とペプチドに対する反応性には相関を認めなかった。これらの結果は NMO の病態には AQP4 に対する T 細胞免疫応答が関与していることを示し、今後の NMO 免疫応答に対する研究の発展が大いに期待される。			
以上のように本論文は NMO 免疫応答に関する研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。			